

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 7 月 15 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071300729		
法人名	株式会社 西日本介護サービス		
事業所名	グループホーム ウィズライフ別府		
所在地	福岡市城南区別府3-7-18 〒 814-0104 (電話) 092-833-4150		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年7月13日	評価確定日	平成21年8月7日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 6 月 19 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和 ・ 平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 17 人	非常勤 1 人 常勤換算 15.9 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての～ 1～2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (一時金を含む)	有( 204,000 円) 無	有の場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 400 円	
	夕食 500 円	おやつ 円	
	または1日あたり 円程度		

## (4) 利用者の概要( 6 月 19 日現在)

登録人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	4 名	要介護 2	1 名
要介護 3	6 名	要介護 4	5 名
要介護 5	2 名		
要支援 1	名	要支援 2	名
年齢	平均 85 歳	最低 68 歳	最高 98 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	たけとみクリニック	前田歯科クリニック
---------	-----------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、幹線道路から一本入った閑静な住宅街に和風の趣を持って佇み、周りの住宅に溶け込んでいる。法人全体としての研修計画や資格取得に向けた支援策があり、職員の育成体制がしっかりと確立されている。管理者は、職員一人ひとりの課題を認識させるような働きかけを行っており、職員はレベルアップに励んでいる。町内会に加入しており管理者が組長を務めるなど、地域の中での普通の生活の営みを通じて、地域との普段着の付き合いがごく自然に繰り広げられている。日常的な外出や音楽鑑賞を兼ねての夕食やふれあいサロンへの参加等、介護計画書に取り入れての外出機会も多い。利用者に残された機能を生かせるように配慮しながら、利用者主体の利用者の心に寄り添うケアの実践が行われているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果を受けて、ミーティングで協議を行うなどの取組みがある。この過程で、再度、理念について検討を行うなど、質の向上への取組みがある。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	今回の受審にあたり、ユニット毎に職員に割りあててまとめる等、全職員がかかわっての取組みがある。この過程において、外部評価の必要性について協議を行い、理解を深め、書類整理の重要性に気づくなど、職員の質の向上が図られている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員などの参加により、2ヶ月毎の開催がある。運営推進会議では、事業所からの報告の他に、料理教室へのお誘い、夕食先の紹介、校区文化祭や地域夏祭り、ふれあいサロンへのお誘いなどの情報を得ている。また、地域独居高齢者と職員とのかかわりについて要望が出るなど、活発な意見交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族面会時の声かけ、6ヶ月毎の家族面談時やその都度の電話連絡、メール、家族会時等の報告・説明がある。また、介護計画に基づいて、状況をお知らせする通信を毎月送付するなどの取組みがある。家族からの要望やアドバイス等は直接職員に出され、出された要望等は、申し送りやカンファレンスにて協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎月の公園清掃、廃品回収、子供会バザーへの出品、地域行事への参加、校区避難訓練への参加、ホーム草取りを近隣の方にして頂くなど、地域との普段着の付き合いが、繰り広げられている。町内会に加入しており、管理者が組長を務めるなど、地域の中に溶け込んでいる。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	グループホーム全体の理念がある。前回の外 部評価結果を受けて、再度理念の検討を行う も、今までの理念の「自分らしくごく普通の生 活」が地域のなかでの普通の生活を意識した内 容となっているため、変更は行っていない。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホールに理念が掲示されており、自然と 目につく工夫がある。ミーティング時に理念の 復唱を行っている。地域との普通の生活や利用 者への少しのお手伝いに配慮しながら日々のケ アに取り組んでいる。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	毎月の公園清掃、廃品回収、子供会バザーへ の出品、地域行事への参加、校区避難訓練への 参加、ホーム周囲の草取りのお手伝いなど、地 域との普段着の付き合いが、繰り広げられてい る。町内会に加入しており、管理者が組長を務 めるなど、地域の中に溶け込んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価結果を受けて、ミーティング で協議を行うなどの取り組みがある。この過程 で、再度、理念について検討を行うなど、質の 向上への取り組みがある。今回の受審にあたり、 ユニット毎に職員に割りあててまとめる等、全 職員がかかわっての取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からの報告の他に、料理教室へのお誘い、外食先の紹介、校区文化祭や地域夏祭り、ふれあいサロンへのお誘いなどの情報を得ている。また、地域独居高齢者と職員とのかかわりについて要望が出るなど、活発な意見交換の場となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加がある。また、就労支援センターや若者サポートセンター、実践者研修等の実習生の受入れを行うなど、様々な機会を通じて行政との連携の取組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人全体としての計画立てた研修やパンフレットを基としての職員への指導など、職員の理解を深めるための取組みがある。家族へは、入居時及び家族会時、家族面会時など、機会をみながらの説明が行われている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけ、6ヶ月毎の家族面談時やその都度の電話連絡、メール、家族会時等での報告・説明がある。また、介護計画に基づいて、状況をお知らせする通信を毎月送付するなどの取組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけ、6ヶ月毎の家族面談時などを通じて、意見や思いの表出に努めている。家族からの要望やアドバイス等は直接職員に出され、出された要望等は、申し送りやカンファレンスにて協議するなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動時は、利用者を交えて送別会を行い、きちんと説明し納得していただくように努めている。新しい職員が入職した場合は、1ヶ月ぐらいは夜勤帯以外の勤務とするなど、馴染みの関係づくりへの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては何ら制限は設けていない。法人全体で募集し、本人のやる気や適性を重視しての採用である。無資格の職員に対して、資格取得に向けて補助を行うなど、職員の育成に力を入れている。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政等で行われる研修を取り入れて法人全体で研修計画を作成し、参加する取組みがある。研修参加後は法人全体で報告を行うなど、人権教育・啓発活動への取組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として、職員の経験年数や勤務年数に応じて計画立てた研修への取組みがある。また、職員は、系列事業所で取り組んでいる研修会へも参加出来る。外部研修についても、法人全体として参加人数等を計画立て参加者を募るなどの取組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会のブロック別勉強会への参加を通じて、懇親会や情報交換が行われている。ブロック別勉強会への一般職員への参加が少なく、今年度は、職員の参加を増やしていきたいとの意向である。		現在検討されている、ブロック別勉強会への多くの職員の参加を实践され、質の向上に向けての情報交換、職員個々の気づきやモチベーションをあげる機会となるような取組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者が赴いての面談や体験入居の利用、家族情報の詳細な把握などを通じて、安心して入居後の生活に馴染めるような取組みがある。新しい利用者には、職員が寄り添い話を傾聴するなど、精神的安定への配慮がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として、尊敬する姿勢を崩すことなく日常のかかわりの中で、名前由来、料理の仕方、地域の話などから学ぼうとする姿勢が伺える。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談、ケアマネジャーからの情報提供、家族情報の詳細な把握に加えて、日常のかかわりを通じて利用者の思いや希望の把握に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族面談や日常のかかわりを通じて把握した利用者の思いや希望等の情報を介護計画書原案に盛り込んで、担当者会議にて関係者全体で協議しての介護計画書の作成がある。介護計画書の内容は、利用者の有する能力に着目した内容となっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	6ヶ月毎及び退院後等の状態変化時にお ける、ケアチェック表の取り直しと介護計画書の 再作成が行われている。全職員による、月1回 程度の全利用者に対する情報交換や現状の確認 等については、今後の課題である。		利用者の変化のあるなしにかかわらず、月 に1度程度は、全利用者に対する職員の気づ きを取りまとめ、全利用者についての情報交 換や周知などの機会の確保と記録への取組み を期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携を活かした緊急時の往診体制、各種 団体等からの実習生の受入れ、地域に住む高 齢者独居宅への訪問、校区有志の集まりにお いて講師を引き受けるなど、専門性を活か した支援や取組みがある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	契約時に説明を行い、今までのかかりつけ 医かホーム協力医の利用かを自由に選ぶこ とができる。今までのかかりつけ医への受 診は家族が対応し、ホーム協力医による 往診と24時間の連絡体制をとるなどの支 援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時にホームとしての方針を説明し、家 族の意向の把握と家族会時に確認が行わ れている。把握した家族の意向の記録と情 報共有への取組みや利用者本人の意向の 把握については、今後の課題である。		利用者の視点にたった見方や考え等に更 に深く取り組んでいただき、利用者の意 向の把握と記録、職員間での情報共有に 努められ、今後予想される状態変化に 応じた話しあいや本人・家族の希望に 沿った(視点にたった)支援への取組み を期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の様子を良く観察しており、物 品の置き間違いを指摘することなくさりげなく 戻したり、利用者に感謝の意を表すなど、利用 者のプライドに配慮した対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしてのおおよその流れはあるもの の、日中の過ごし方、食事を始めるタイミン グやかかる時間、入浴時間など、利用者一人 ひとりのペースに合わせた対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	栄養バランスや見た目に配慮して、各ユニ ット毎の調理である。野菜の下ごしらえやテー ブル拭き、下膳など、利用者のできる事を活かし ながら支援する取組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	朝風呂や夕食前後の入浴支援など、利用者 の希望にそった入浴援助である。マイシャンプ ーの準備や足浴など、入浴を楽しむための支 援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	新聞運び、花の水やり、買物、廃品回収や公 園清掃への参加、料理の下準備、来客へのお茶 だしなど、利用者一人ひとりのできる事や楽し みごと等を把握し、その時々の利用者の気持を 尊重しながらの支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	音楽鑑賞を兼ねての外出、ふれあいサロンへ の参加、植物園見学、日々の買い物、地域行事 への見学、バスハイクなど、多くの外出に取り 組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	職員は、鍵を閉めることの弊害を良く心得て おり、日中は開錠している。職員体制や利用者 の状況等でやむを得ず施錠する場合の理由や時 間等について、家族へ説明し同意を得ている。 現在は、近隣住民の見守りの中、施錠すること なく落ち着いた生活が営まれている。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回の避難訓練の実施がある。ホームで行 われる救命救急やAEDを使った講習に、近隣 住民の参加が見られる。また、地域防災訓練に 参加するなど、非常災害時の地域との連携が図 られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	ある材料で、栄養バランスや見た目に配慮し たメニューの作成である。治療食や栄養バラ ンス等についての勉強会に参加し、メニューに取 り入れる工夫をしたり、お粥やミキサー食、ト ロミ食を提供するなど、利用者の状態に応じた 支援がある。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールは広く開放感があり、ホーム内は 段差がなく安全に移動ができる。リビングは自 然採光を取り入れつつ廊下は間接照明にするな ど、照明がもたらす影響にも配慮が伺え、ゆっ くりとした時間が流れている。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品、仏壇、本、テレ ビ、ポットなどが持ち込まれており、利用者 の人の柄が伺える居室となっていた。		

は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号